

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎的・基本的な知識・技術の習得と、総合学科の教育システムを実現するための教育課程の編成を推進するとともに、組織的な授業改善に取り組む。	①新カリキュラムに基づき、昨年度実践した内容を踏まえ、新カリキュラムの必修科目・系列科目・選択科目について指導を行う。 ②多様な学びの場を提供するとともに、参加する生徒の姿勢や意欲を向上させるための指導を行う。	①引き続き単元計画の作成を通して、新カリキュラムの科目の指導内容および、学習評価の在り方について具体的に検討する。昨年度発足したWGの活動と連携し、よりよい授業づくりを推進する。 ②生徒の確実な単位修得に繋がる指導に取り組む。また、情報の提供を行い生徒の興味を促す。	①新カリ完全移行に向けて、本校生徒の実態を踏まえた学習内容の検討及び実践ができたか。 ①今年度導入予定のツールを利用した効果的な授業実践が行えたか。 ①学習評価の在り方について共有検討を促すことができたか。 ②学校外活動での単位修得が推進できたか。	①学校設定科目を中心に単元計画を作成し、学習内容の検討と実践ができた。 ①ロイロノート等の授業ツールを活用し授業実践を行った。	①生徒による授業評価の結果を分析し、さらなる改善を行う。 ①WGの取組をさらに推進し、授業改善に努める。 ②学校外活動への参加を通して、主体的に学ぶ姿勢の育成を図る。	①生徒による授業評価は評価方法を客観的指標に基づいて行うと良い。授業評価と結果との相関関係を示せるとなお良い。 ①ICTを活用した授業実践を継続し、授業改善に努める点を評価します。 ②学校外活動への参加を呼びかけるにあたり、目的や目標を明確に示すことが重要となる。	①新カリキュラム科目の学習内容と授業評価の結果を検証ができた。 ①ロイロノートの活用により授業の効率化が図られた。 ①学校外活動への参加を通して主体的に学ぶ姿勢が育成された。	①本校生徒の実態を踏まえ、授業改善を推進し学力向上を図る。 ①ICT利活用について、各教科の特性を踏まえた授業改善を推進する。 ①多様な学びの機会を創出することでより多く生徒の参加を促す。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的な生活習慣・規範意識の涵養、部活動の活性化など、学校生活の充実を図る。 ②関係機関と連携した教育相談体制を推進させる。	①基本的生活習慣を身に着けられるよう、様々な場面での指導を行い、規範意識を高める。生徒が学校行事等や生徒会活動、生徒委員会活動、部活動等を通じて充実した学校生活を送る中で、社会の一員として必要な資質・能力を育成する。 ②SC、SSWとのさらなる連携による教育相談体制作りを推進する。状況に応じ、外部機関との連携を図る。 ③外国につながる生徒への支援を行う。	①職員が共通認識を持ち、授業、学校生活、学校行事等を通じ、あらゆる場面での生徒支援を行う。学校行事等や生徒会活動、生徒委員会活動、部活動を通じて各々の個性を生かして活躍できる機会をつくれたか。 ②教職員が研修等を通じて、教育相談やいじめについての理解を深め、生徒・保護者が安心して学校生活を送れるように支援する。 ③外国につながる生徒の状況と進路支援ができたか。 ③外国につながる生徒の状況を共有し、組織的な支援を行う。 ③組織的な支援を行える体制を検討する。	①生徒が自分から考えて行動し、けじめある生活習慣を身につけられたか。学校行事等や生徒会活動、生徒委員会活動、部活動を通じて活躍できる場をつくれたか。 ②職員研修を行い、教育相談やいじめへの理解を深め、問題や悩みを抱える生徒・保護者の解決につながれたか。 ③外国につながる生徒の日本語習得と進路支援ができたか。 ③よりよい支援体制が構築できたか。	①頭髪、服装指導や授業規律指導の継続的な取り組みにより落ち着いた学校生活となった。 ①通常開催となった体育祭文化祭では、生徒の主体的な活動によって盛況となった。 ②教育相談体制の整備により個に寄り添った支援ができた。 ③外国人生徒支援において個別の状況を職員間で共有し、組織的な支援体制の整備を図った。	①SNSの適切な利用を促すモラル、マナー指導の推進を行う。 ①部活動、委員会活動の活性化を図り、その取組みを支援する。 ②校外機関との連携の対応を整理し、個別支援を迅速に行うことのできる体制を構築する。 ③学校運営協議会と連携し外国人生徒支援、多文化共生教育の推進を図る。	①式典等での生徒の身だしなみに指導の成果が垣間見られた。今後も継続を望みます。 ①部活動や委員会活動の活性化により非認知能力を育んでいる。自己有用感を高めることで、主体的に授業規律を守り、自治能力を養うことにつながると考え、評価します。 ②個別事案に対応できる体制が整いつつあり、生徒や保護者に寄り添った支援が行われている様子がうかがえた。 ③多文化共生の地域にある学校として、外国人生徒や外国につながる生徒への支援をしていることを評価します。	①継続的な生活習慣指導により基本的生活習慣の定着が図られた。 ①学校行事の通常開催により生徒の自主性を育成が図られた。 ②職員間での生徒情報の共有化が図られ、適切な指導、支援が図られた。 ③多文化教育コーディネーターや日本語指導員との連携により組織的な支援を行った。	①自己と他者を尊重し、モラル、マナー指導を通じて規範意識の醸成を図る。 ①学校行事、部活動、委員会活動への積極的な参加を促し、取組の活性化を図る。 ②かながわ子どもサポートドックを活用し、より迅速な個別支援につなげる。 ③JLPT取得を奨励し、希望する進路実現を支援する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①キャリアガイダンスの実施内容の更なる充実に向けた検討と生徒の主体的な進路実現への支援を推し進める。	①「キャリア教育実践プログラム」の見直しを引き続き検討する。 ②自ら考え行動できるような主体的な姿勢で希望進路の実現に向かっていけるよう支援する。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」の学習内容を様々な方法で恒常的に見直す。 ②卒業後の進路を踏まえ、適切で計画的な履修指導やキャリアカウンセリングを行う。また、家庭と学校が連携して生徒の支援を行えるような方法を検討する。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」の取組みに対し、方法を工夫しながら恒常的に改善を加えることができたか。 ②履修指導やキャリアカウンセリングが適切に計画的に行われたか。保護者への進路情報の提供が、適切に行われたか。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」における探究的活動を推進し、生徒が主体的に学び、表現力の育成が図られた。 ②履修指導や希望進路の実現に向けて生徒・保護者への情報発信を積極的に行った。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」の取組みを検証し、キャリア教育実践プログラムのさらなる充実を図る。 ②自身にとって有用な進路情報を活用する能力の育成を図る。	①未来探索の発表会は回数を重ね向上している。職員の指導もよりの確になっている。こうした好事例を共有する仕組みがあると良いと思われま す。 ①ICTを活用した発表は素晴らしかった。運営する生徒にとっても良き学びの場となっていると感じました。 ②自身にとって有用か否かを判断する指標を示せば説得力を増す。 ②自ら進んで進路情報を収集し活用できる能力を育んでいただきたい。	①継続的な支援の積み重ねによって、生徒のプレゼンテーション能力の伸長が見られた。 ②履修指導や進路指導において、積極的に情報発信するとともに、丁寧な個別指導を行うことができた。	①主体的に学ぶ姿勢、体験的な取組みを自身の言葉で発信できる表現力の育成を一層推進する。 ②情報を収集する能力と活用する能力の伸長を図る。
4	地域等との協働	①地域との連携を密にし、外部の教育力を活用する。 ②PTAとの協働による教育活動を、より発展させる。	①学校行事や授業を通じ、生徒が地域と交流し、積極的に社会に寄与する意欲や態度を育む。 ②PTAとの協働の機会を増やし、行事を充実させ、生徒の満足度を高める。	①学校行事や授業を通じ、生徒が地域と交流する機会を設ける。 ②行事や式典へのPTA参加を増やし、生徒と保護者が関わる機会を増やす。	①生徒が地域と交流し、積極的に社会に寄与する意欲や態度が育ったか。 ②PTAや保護者がどのくらい学校行事に参加し協働することができたか。	①近隣保育園の運動会の準備に部活動、委員会生徒が参加することで地域貢献した。 ②体育祭、文化祭に多くの保護者が来校し、生徒の活躍する場面を見ていただいた。	①地域交流事業を年間計画に位置付けて、生徒の活躍の機会を創出すること。 ②学校行事で保護者や地域と協働する企画を検討する。	①PTAや保護者の学校行事への参加が強制的になっていないかといったチェック機能があると良いと思います。意見を聞き取り、逆提案をお願いしたりして皆が参加しやすい土台づくりを考える。 ②学校、保護者、地域との協働は鶴総の強みであり、より一層の推進を図っていただきたい。	①地域交流事業において、地域から信頼される生徒像づくりを行うことができた。 ②学校行事や式典に保護者が来校できるようになり、協働的な教育活動の復活が見られた。	①年間計画に位置けるとともに、生徒の活躍する場面の創出を図る。 ②保護者や地域との協働の機会を充実させ、学校行事や地域交流事業の活性化を図る。
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会の活動を、教育活動などとリンクさせる。 ②教職員一人ひとりに事故・不祥事防止を常に意識させるとともに、教員としての資質や指導力向上のため、学び合う組織を目指す。 ③働き方改革を取り入れた業務遂行を実践する。	①学校運営協議会や地域の教育活力と協働した学校運営を行う。 ②業務効率の向上と事故・不祥事防止を一体としてとらえて業務改善を推進する。 ③教育の情報化を推進し業務効率を向上させる。	①学校行事や課題研究発表会を関係者に公開し、本校の取組の意見聴取を行う。 ②成績処理、調査書作成等の手順確認を不祥事防止研修と位置づける。 ③校務ネットワークを整理して、職員間で業務情報の共有を図る。	①設置部会との協働による地域交流や外国人生徒支援を行ったか。 ②マニュアルを検証し、課題の共有が図られたか。 ③グループ業務のマニュアル化を推進し、職員が閲覧できるよう整理されたか。	①教育活動視察及び地域交流については一定の成果が見られた。 ①外国人生徒支援部会については校内の取組と設置部会との連携が不十分だった。 ②マニュアルの検証と整備により業務の効率化と事故防止が図られた。 ③ペーパーレスを推進し、校務用サーバーを整理した。	①地域交流事業、多文化共生教育について設置部会との協働を図る。 ②業務の効率化と事故防止の取組みを一層推進する。 ③教育の情報化に向けた取組みを検証しさらなる推進を図る。	①クラブ活動などで外部機関や人材を活用した運営を検討し、業務効率化をより進めると良いと思います。 ②マニュアルの検証は業務改善の有効な手段でありさらなる推進を期待します。 ③業務の効率化を図ったことは、素晴らしい改善で、鶴総の評価が高まる基礎となります。	①学校運営協議会における意見聴取や委員の皆様からの助言により様々な視点から学校運営を推進する機会となった。 ②マニュアルの継続的な検証により一層の業務改善が図られた。 ③業務の効率化が図られたことにより生徒と向き合う時間の確保につながった。	①地域の教育活力や外部人材に積極的に協力をいただき、地域に開かれた学校運営を一層推進する。 ②職員が業務内容の理解を深化させ、業務改善と事故・不祥事防止の一体化を一層推進する。 ③業務改善に引き続き取り組み、一体感ある働き方改革を推進する。